

生徒にとって魅力ある道徳の授業を目指して

— 生徒から学んだこと —

鴨井 雅芳（東京都目黒区立第三中学校）

1 はじめに

「道徳の時間は生徒にとって魅力ある時間でありたい。」と常に思いながら授業を行っている。生徒達は一人残らず「よりよく生きたい。」と思っている。その願いに応えるような道徳の授業の積み重ねがあれば確実に生徒の生き方にいい影響を与え、学級集団の質は確実に向上する。

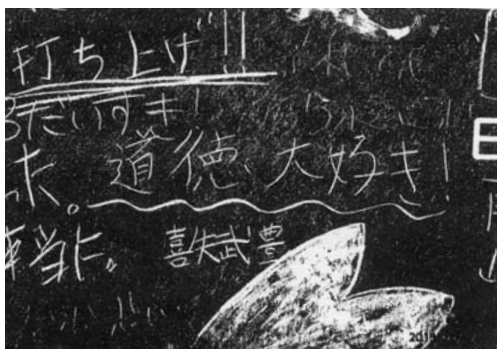
しかし、現実には思春期をむかえた中学生を相手に魅力ある授業はをつくるのはそうたやすいものではないが、生徒と向き合い共に生徒と考える道徳の時間を作るスタンスをとれば次第に生徒にとっても、教師にとっても道徳の時間は魅力あるものになる。

魅力ある道徳の時間はどうすればできるのか。それは、私の拙い授業実践の中で生徒がすべて教えてくれている。私が生徒から学んだことをここにお伝えしたい。

2 生徒にとって魅力ある授業とは

次に掲げるアンケート結果は私が昨年度担任した三年生のクラスの生徒達が卒業する前に行ったものである。生徒達が道徳の時間をどう思っていたのか、そして道徳の時間が自分にとってプラスになったと感じてくれているのか。そして印象に残っている道徳の授業について問い、私の道徳の授業改善に資するために行ったものである。

道徳は自分にプラスになったか（アンケート）



目黒区立第三中学校
3年B組生徒28名
担任 鴨井 雅芳
(平成25年3月実施)

◎道徳は好きですか

- | | |
|-----------------|-----------------|
| A とても好き 22名 | B どちらかといえば好き 5名 |
| C どちらかといえば嫌い 1名 | D とても嫌い 0名 |

理由（全員分）

- A 他の生徒と違った意見が持てるという普通のあたりまえのことができるから好き（K.Fさん）
- ・決まった答えや正解がないし思ったことが自由に言えるから好き（R.Kさん）
 - ・色々なことが学べるから。〇〇先生の道徳が好きだから。（R.Iさん）
 - ・色々なことに気付けるから。「あ、こういう生き方もあるんだな」って思ったりします。小学校の時などは道

徳って大体同じようなことを言っとけばいいでしょ」と思っていました。けど〇〇先生の授業はちがいます。それぞれ違うことをいってなんぼ！！(B.Oさん)・例文とかがとても多くて自分で想像できるから。(R.S君)

- ・真剣に考えれば、学べるがたくさんあるから。(Y.Tさん)
- ・〇〇先生の道徳は考えさせられるから。(N.Gさん)・人間的なことを知ったり学ぶことが好き。(K.Fさん)
- ・文なのに人の気持ちを考え、その人になりきると気持ちがわかる気がした。気持ちの裏にかくされている本当のわけなど心にぐっときます。(R.Yさん)
- ・物語を読むというのも大好きだし、同じ資料を読んで他の人の意見を聞いて自分はこう考えたけど他の人はこう考えたんだと色々な発見があるので。(S.Sさん)・自分の意見や考えが正確になるから。(R.H君)
- ・落ち着けるから。自分の思ったことを言えるから。(K.K君)
- ・自分の考えを持つことができるし、クラスメイト達と自分とは違う意見を交換したりできるから。(Y.S君)
- ・〇〇先生が使う資料はとてもいいし、考えさせてくれるから (S.M君)
- ・自分の持っている意見と周りのみんなの意見を比べたりして同じ意見だったら「やっぱり」みたいになるけど、全く違う意見だったりしたりなんでそう考えたんだろうと自分なりに考えたりして楽しかったし、やっぱり人はそれぞれ考えていることは違うんだなと思ったから。(T.F君)
- ・他の人と意見が違って、答えは何通りもあるということからそういう考えもあるのかとったりすることがあり、みんなで意見について深く考えたりするのがいいから。(H.I君)
- ・色々な人の意見が聞けて楽しいから (K.Mさん) ・道徳の授業をやると考えの幅が広がる (I.Fさん)
- ・正直最初は面倒くさいと思っていた。でも〇〇先生の道徳に出会ったことで考えることの楽しさを知ることができ、楽しいと感じたから。(M.Aさん)
- ・何かひとつのことに深く考えることが好きでさらにそれをみんなに伝えることができるし、他の人の意見も聞けるからです。でも、それは〇〇先生じゃなかったら好きだと思えないと思います。本音が言える道徳の授業があっただけだと〇〇先生のおかげで思えました。(A.Yさん)
- ・普段あまり考えないことをクラスのみんなと考え、たくさんの意見を聞くことで自分とは違う人がいるんだという理解につながられるから。(N.Aさん)
- ・先生の道徳の授業はきれいごとを言うことは一切必要なく、自分の思ったことをそのまま伝えることができ楽しかったです。だから道徳は好きです (M.Tさん)

B・わざとらしいような話があったりするけど色々な話を聞いたり読んだりするのが好きだし、それについて考えるのも嫌いじゃないから。(M.Uさん)・静かで目の前の事についてよく考えられるから。(Y.S君)

- ・話を聞いたり、読んだり面白いから。自由にいろんな意見を言えるから。(M.K君)
- ・おおっぴらに大衆意見を批判できるから (要するに言いたいことを言える) (T.S君)

C・何だかただきれいごとを言っているようにしか聞こえない部分があった。道徳は大切だと思いますがもっと大切なものもあるし、正直あまり面白くなかった。(N.S君)

◎道徳の授業を受けてよかったと思えたことはどんなことですか？ (抜粋)

・小学校のころはきれいごとばかり言っていました。中学校になってから本音を言えるようになったこと。他の人の意見を聞くことによっていろんな考えを学べたこと。自分の心が広がったことです。自分でも2年前と比べてらすごく心が広がったと思うし、友達からもそう言うようになってきました。知識とは別の道徳心を学ぶことができたのでうれしかったです。道徳の時間がなかったら今の自分はないかも知れません。(A.Yさん)

- ・道徳をやった人間関係がよくなった (I.Fさん)・人の意見も取り入れられるようになった。(R.H君)
- ・みんなの考えなどに共感し、考えを深めることができた。3年間まじめにやってきて性格が変わったと思う。(H.I君)

- ・普段から色々なことに対して考えるようになった。3年やるとどんどん意見が考えられるようになりました。
(T.F 君)
- ・他人への思いやりがさらに深まった。先生の道徳は1年間でしたがたくさんのことを学ぶことができました。僕は将来道徳心を持つ人間になりたいです。(S.M 君)
- ・クラスみんなが自分の意見をちゃんとと言えるのでとてもみんな仲良しになれた。(K.M さん)
- ・考え方が深く広くなった。他の人のことまで考えられるようになった。(K.K 君)
- ・いろんな人の意見を本音でぶつけるところがよかったと思う。「十人十色でみんな良い!!」そんな感じ。
(R.Y さん)
- ・自分の知らないことが知れた。考えることが好きになった。実用的だと思う。(Y.S さん)
- ・人の気持ちや心をわかるようになる努力ができた。(K.F さん)
- ・自分らしさを出すことのできる唯一の授業だった。他のクラスメイトの意見を聞きながら、その人、その人の個性を見つけることができ、よかった。(Y.S 君)
- ・普段あまり深く考えないことを考える良い機会だった。今までと違う考え方ができたと思ったとき道徳の時間はいいと思った。「偽りのバイオリン」「ロンドン発ケンブリッジ行き」のあと少し正直になった気がする。
(M.U さん)
- ・自分に素直になれた。自分の本当の心と向き合える気がしてよかった。(R.K さん)
- ・小学校だと1人だけ違う意見を挙げたら却下されたけど〇〇先生の授業では尊重してくれたのでよかった。
(R.S 君)
- ・人と違う意見があたりまえだと実感できた。だから発言したいと思える時間だった。自分の考えを深くできたのでよかった。(M.T さん)

◎印象に残っている道徳の授業(資料)ベスト5

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 いつわりのバイオリン | 他 天使の舞い降りた朝 |
| 2 カーテンの向こう | 美しい母の顔 |
| 3 アンパンマン(命の星ドウリイ) | 嘉納治五郎 |
| 4 レジ打ち | |
| 5 ロンドン発ケンブリッジ行き | |

道徳の時間を中軸にして学級経営を行った結果、ほとんどの生徒は道徳の授業が好きになり学級のまとまりも出てきて雰囲気もしっとりとしてきた。

しかし、この学年が1年生のとき、道徳の時間は生徒にとっても教師にとってもつらいことが多々あった。このアンケートで道徳の授業がとても好きと答えている生徒達が入学当初は「道徳大嫌い」と言っていたのをよく覚えている。

生徒にとって魅力ある道徳の授業を阻む要因として生徒側の課題と指導者側の課題が考えられるが、生徒側の課題としては私の体験上生徒の発達段階に起因する二つのことが考えられる。

生徒によって個人差はあるが、一つ目はほとんどの生徒は価値の理解ができているということである。わかりきったことを大切だ大切だと授業で訴えられても価値の自覚までは至らない。二つ目は思春期に入り、生徒によっては自己肯定感が低くなっていく。その結果、自分のことをふり返ろうとせず、自分の生き方を考えようとしないう生徒も出てくる。

生徒の実態を十分踏まえた指導の工夫が求められる。

3 道徳の時間を進める上で大切なこと(八か条)

私は常々次に挙げる八つの項目(これを私は八か条とっている)を念頭に入れて道徳の授業に臨んでいる。いずれも道徳授業実践の中から生徒が教えてくれた授業を進める上で欠かせないことである。

道徳の授業を進める上で大切なこと（八か条）

一、道徳の時間は教科の指導とは異なることを認識する。

→ 教科は知的理解を豊かにする。道徳は価値を自覚として深める。
（価値の知的理解はほとんどの生徒ができています。）

二、道徳的価値（各24項目）の大切さだけを強調しても価値の自覚は深まらない。

→ 人間は価値だけで生きているわけではない。
（人間の持っている生得的な面（本性）を無視できない。）

例 人間の持つ弱い側面・醜い側面

- 自己中心、自分勝手、わがままなど自分の立場だけが強くはたらく
- ・いじめや迷惑行為などを見て見ぬふりする
- ・つり銭が多かったときに猫ばばしてしまいたくなる。

人間の持つ気高い側面・崇高な側面

- 命の危機に直面したときとっさの行動をとってしまう。
- ・ほっとけない。見て見ぬふりができない。

人間の持つ道徳を求める側面

- よくなりたい・よく生きたい・よい友達がほしい・認められたい
- ・流行に自分も乗りたい。

三、価値の押し付けをしない。

→ 生徒の行動を一定の枠に当てはめようとする指導は価値の押し付けであり、生徒は納得しない。

四、即効性を求めない。

→ 特に授業の終末では実践への意欲付けにこだわらない。

五、続けることが大切。

→ 続けていけば学級は次第に考える集団と変容し、学級の雰囲気はしっとりしてくる。（学力向上にもつながる。部活も強くなる。）

六、自分の体験と重ね合わせて考え、生徒の本音を引き出す。

→ 生徒はよりよく生きたいと思っている。きれいごとではなく、生徒の本音を引き出したい。（資料の登場人物の心情分析でとどまってはならない。登場人物と自分が重ね合わさっていないなければならない。＜資料の仮面性＞）

七、教師も生徒と同じ未完成な人格者であることを自覚して指導にあたる。

→ 発問に対する生徒の考え（意見）は受容的に受け止める。

八、生徒同士、生徒と教師の人間関係が基盤となる。普段の学級経営と密接な関係がある。

4 実践事例（「いつわりのバイオリン」を資料として）

道徳学習指導案



日 時：平成23年6月17日（金）5校時
場 所：目黒区立第三中学校2年A組教室
生 徒：2年A組29名
指導者：鴨井 雅芳

(1) 主題名 生きる喜び 【内容項目3－(3)】

(2) 資 料 「いつわりのバイオリン」作：鴨井 雅芳（出典：「自分を見つめる」暁教育図書）

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする価値について

中学校二年生ともなると人間の生き方についての関心も高まりつつあり、人間は内に弱さや醜さをもつと同時に勇気や気高さを併せてもっていることを理解することができるようになってきている。人は時に、内なる弱さ、醜さが顔を出してしまい、つい過ちを犯してしまうことがある。しかしそれを悔い改めようとするか、あるいはそれを平然としているのか、人としての真価はそのときに問われるのではないだろうか。

人間には弱さや醜さもあるが、正しさを求めて迷いながらも努力し続ける生き方のなかに人間の勇気や気高さがあることを知り、人間として誇りある生き方を目指してほしいと願い、本主題を設定した。

② 資料について

バイオリン作りの師匠フランクは、弟子のロビンが作った作品を自分のものと偽り、著名な演奏家に提供してしまう。フランクの心の弱さ醜さが心に宿る人間のありのままの姿を見ることができ、生徒にとって身近に感じることができる物語である。自らの行為を悔い、良心の呵責に悩み苦しむフランクの姿を通して、自分に恥じない生き方とはどのようなものであるか、自分自身を振り返りながら考えを深めていくことができる。

(4) 指導上の工夫

① 導入の工夫

○ 実際にバイオリンを示し、資料に対する興味・関心を高める。

○ 事前に「ついやってしまい、あとで後悔したことはないか。」というアンケートをとり、いくつかを紹介することで価値に対する導入とする。

② 資料提示の工夫

BGM を効果的に利用する。

(5) 本時のねらい

弟子からの手紙を読みながら涙を流し、道徳的に変化する主人公の姿から人間には、弱さや醜さもあるが、それを克服して生きがいを求めようとする勇気や気高さがあることに気付いて人間としての誇りを大切に生きていこうとする意欲を育てる。

(6) 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入	○事前に行ったアンケートをいくつか紹介する。 ○資料「いつわりのバイオリン」に興味をもつ。		・価値に対する導入とする。 ・実際に、バイオリンを示し、本資料に興味をもつようにする。
展 開	○資料「いつわりのバイオリン」を読み、以下のことを話し合う。 1 悩んだ末フランクはバイオリン作りを引き受けたが、どんな気持ちからだろうか。 (なぜ断れなかったのだろうか。このような体験をしたことはないか。) 2 フランクはバイオリニストにバイオリンを渡すとき震えていたが、どんな気持ちだったのだろうか。 3 フランクは日夜、胸を痛め続けていたが、その日々の気持ちはどんなものであったか。 4 <中心発問> ロビンの手紙を読み、涙を流しながら何を考えていたのだろうか。 (補助発問) フランクは涙と一緒に何を流したのだろうか。 (補助発問) フランクは今後どのような生き方をしようと思ったか。	・あこがれのバイオリニストに自分の作ったバイオリンで演奏してもらえる喜びから。 ・永年の夢が叶う。 ・世界で有名になれる。 ・フランクの工房が栄える。 ・これを渡すわけにはいかない。 ・心が痛む。 ・あとでばれたらどうしよう。 ・取り返しのつかないことをしてしまった。 ・ロビンに申し訳ないことをした。 ・偽りのバイオリンをバイオリニストに渡してしまった自責の念。 ・ロビンがこんなに私のことを思っていてくれてありがたい。 ・なんて自分はだめなやつなんだ。 ・涙と一緒に弱い自分、醜い自分を流した。 ・もう一度頑張ってみよう。 ・かつてのようにいい音色のバイオリンを追求していこう。 ・もう二度と過ちはおこすまい。	・フランクの気持ちを生徒たちの体験と重ね合わせて考えさせ、人間は強さや気高さを持つが反面、心の中には弱さや醜さをもつものであることを考えさせる。 ・フランクの心情を共感的に理解させたい。 ・フランクの心情を共感的に理解させたい。 ・ロビンに対しての思いのみでなくフランクのしてしまった行為に対する思いを出させる。 ・ロビンに申し訳ないという気持ちだけでなく「弱さや醜さを克服し生きる喜びをもつ」という価値が自分にとってはどういうことなのかを考えさせる。その際今後どのような生き方をしようと思ったのかを考え合わせることでよりねらいとする価値の自覚が深まると思われる。
終 末	○教師の説話でまとめ、心のノートP80の詩を各自黙読する。 ○今日の授業で思ったこと感じたことを書く。		余韻をもって終わる。

(7) 評価の観点

- ① フランクの弱さ醜さを自分にも通じることとして共感できたか。
- ② フランクの心情を自分の体験と重ね合わせて考えることができたか。
- ③ 誇り高い生き方をしようとする意欲が高まったか。

5 発問構成

起 承 転 結 場面		発 問 構 成 例
起 道徳的問題の起こり	主人公フランクは有名な演奏家からのバイオリン作成の依頼がくるが演奏会の日までとても間に合いそうになかった。しかし、迷ったあげく引き受けてしまう場面。	<発問1>間に合いそうにないと思いつながらバイオリン作りを引き受けてしまうがどんな気持ちからか。
承 道徳的問題が展開する (登場人物の悩みや葛藤が見られる場面)	やはり間に合わず、弟子のロビンのできのいいバイオリンのラベルを貼り変えてしまい、自分が作ったと偽って渡してしまう場面。 その後は悩み、苦しむ日々場面。	<発問2>どんな思いからロビンのバイオリンに自分のラベルを貼ってしまったのだろうか。 <発問3>いつわりのバイオリンを渡してからの苦しみの日々の思い。
転 道徳的な変化が見られる場面 (道徳的に高まる場面)	ロビンは独立してフランクの元を離れるが、ロビンのいなくなった工房は衰退の一途をたどる。ある日生気なくたたずむフランクの元へ、一通の手紙がロビンから届く。今までの自分を悔い改め再出発を誓う場面。	<発問4 (中心発問)> ロビンからの手紙を読み、どんなことを考えていただろう。
結 話のまとめ	自分を取り戻す旅に出る。	

6 「いつわりのバイオリン」2 Aみんなの考え

フランクは今後どのような生き方をしようと思ったのか

- ・ロビンに正直に事実を打ち明けてまたロビンのいたときのように自分に強く、自信をもっていく。
- ・弟子に憧れてもらえるようなバイオリンを作れるようになると思った。後で、憂鬱とか後悔しないようにする。
- ・正直に自分にも相手にももう後悔ないように。 ・自分に恥じない生き方!!!!
- ・今度は正直にロビンに笑われないようにまた頑張って作っていきたいと思った。 ・後で後悔しないようにしたい。自分に恥じない人間になりたい。自分に正直になりたい。・あきらめず、素直に、自分の力をできるかぎりバイオリンに注ごうと思った。 自分に恥じない生き方。(2) ・ロビンにバイオリンのことを打ちあけて新しい気持ちでまたバイオリンを作っていこう。 ・やましいことが無いように誠意を持とう。包み隠さず、正直な生き方をしよう。
- ・人に優しく、弟子とかを大切にしようそをつかなくて、人(仲間?)を大切にしてください。
- ・人への感謝の気持ちを持ち続け、自分に対して正直に生きていく。あとで後悔しないように生きる。ロビンみたいに夢や希望を持って生きる。 ・正直に生きようと思った。(自分にも人にも)(4)
- ・もっと素直になって思ったこととかやってしまったことはちゃんとあやまろうと思った。自分にも他人にもうそをつかない人になろうと思った。 ・自分に正直に後悔しないまっとうな生き方。
- ・フランクはこれから、頑張って、またバイオリンを作ろう!ロビンが作ったバイオリンに負けないような物を作るぞ。やったことを正直に言っていく。後悔がないように・・・ ・もううそをつかない。
- ・ロビンも頑張っているから自分も正直に、そして自分の自分だけのバイオリンを作っていこうと思ひ、生きていく。
- ・まず、正直なことをロビンに伝えようと思った。(そしてまたバイオリンを作りたいと思った。)それから、自分にも他人にも正直に生きたいと思った。 ・今回のようなことをやらない。でもやってしまったら正直に言う。自分にうそをつかない。 ・これから自分に正直になりたいと思った。少しずつロビンにしてしまったことを償いながら

一步一步前へ進んで頑張ろうと思った。 ・やったことは素直に話し、これからは後悔しないように生きたい。
正直な自分でいたい。 ・ロビンのように真摯にバイオリンづくりに励みたい。自分に正直に生きる。
・言えなかった自分が情けない。 ・自分のバイオリンにはきちんと自分のラベルをはって、自分が作ったんだと胸をはれるような生き方。 ・これからロビンにあやまり、もう一度自分から逃げず、真摯にバイオリンを作っていく。自分の悪と戦って本当の自分のバイオリンを作っていく。

思ったこと、感じたこと

- ・どんなときも自分に甘くせず、よい自信を持って自分らしく正直にこれからも生きたい。
- ・ロビンはすごいと思った。わかっていたのにフランクに言わなかった。
- ・フランクは後悔したと思うが、そのことで学べるものがたくさんあったと思う。僕も後悔をしないように生きていきたいと思った。もし、後悔してしまってもそれをばねにして頑張りたい。
- ・やっぱりいけないことをしたら、あとには自分が後悔してしまうということが分かった。
- ・人はだれでも失敗することはあるけど、正直に生きていくことが大切だということを学んだ。
- ・自分とは全く関係ない話だけど、自分と重なる部分が多くて恥ずかしかった。けれど、フランクのようにまた頑張ろうと思い、勇気をもらった。 ・つい、やってしまったことは、正直に言った方がいいと思った。
- ・今日の授業で、私も自分に恥じない自分に正直な生き方をしたいと思った。うそとかいろいろついて一度しかない人生をむだにしたいくない。フランクさんは今回失敗してしまったが失敗が学べるものがあって良かったなと思った。
- ・今回のあめ、ガム事件もそうだけど、失敗したらそれをきちんと正直に言って、失敗したことを他のことで取り返す。1回限りの人生なんだから、死ぬ前に後悔しないように生きて生きたい。
- ・いつわりのバイオリンを読んだのは初めてではなかったけれど前よりもっと学べたと思った。
- ・うそをついても後悔するだけだと思った。 ・やってしまっても、正直に言った方がよいと思った。 ・学んだ。
- ・フランクは私を含めてあめ・ガムなど事件に関わっている人と同じ気持ちだと思った。
- ・何かをごまかしたり、断ることはしっかりと断り、正直に生きていかなければいけないと思った。
- ・今日の授業ではなぜかフランクの気持ちがよくわかった。こんな経験したことないのに何でだろう。
- ・これから、何かやったら正直に言う。アメ、ガムのことと同じ気持ちだった。 ・何事にも後悔がないように！フランクは後悔したけど・・・学ぶことがあった。 ・嘘をつくのは人間だからしかたないかもしれないけど、正直さは大切だと思った。 ・フランクの気持ちを一度は感じると思った。 ・感動した！！
- ・正直さはやはり大切だと思いました。自分は自分なので自分らしいものが大切。
- ・本当に申し訳なく思った。今も自分のことを考えたり覚えていてくれてうれしくて感謝した。
- ・いい話だなと思いました。私もフランクのような後悔をなるべくしないように生きたいです。一つのことによって一生懸命生きられたらなーと思います。 ・自分にも他人にも正直に生きようと思いました（自分も相手も長い間苦しまないように。）そして自分がまちがいをしてしまったら、正直にあやまるべきだと思った。
- ・今回三中で起こったアメ・ガム事件はやっていけないと知っていてやってしまったので、フランクさんと同じことをしてしまったと思った。
- ・私も今ある命を大切に、自分に恥じない生き方自分に正直になれる生き方をしたいと思う。人にうそをつかない。
- ・一回限りの人生を悩んだり苦しんだりすると思う。けどその時は誰かに素直に話すことは大切だから、相談しあえればよかった。これからは後悔しないように生きればよいと思う。
- ・誰もが良い心を持っていれば、やましい心も持っていると思いました。できるだけ正直に生きることに気を付けることから始めればよいと思いました。
- ・フランクさんのような経験はたくさんあって、わたしは何度もそういうことでつまづいているので今、自分が何をすべきかなどを思った。正直に生きることは大切だと思った。後悔しても学ぶことはたくさんある。
- ・胸を張って堂々とじしんを持つ。できるだけ後悔をしないような正直な生き方がしたいです。
- ・人は自分の悪と戦っていったら真摯に自分の悪い所を受け止めるのが大事だと思う。うそをついて何かを手に入れても、自分でちゃんと取らなきゃ意味がないものだと思う。

7 資料「いつわりのバイオリン」

その昔、ドイツのプレーメンという町のはずれに、バイオリンを作る小さな工房がありました。そこではフランクという腕のよい職人がせっせとバイオリンづくりに励んでいました。当時はまだ機械を用いることはなく、すべて手づくりで一つ一つ丁寧に仕上げていました。仕上がったバイオリンの内側には作者の名前の入ったラベルを貼ることになっているのですが、フランクは納得のいかない作品には、自分のラベルを貼ろうとはしません。暮らし向きは決してらくではありませんでしたが、よりよい音を求めて、バイオリンづくりに情熱を燃やすフランクでした。

ひとりコツコツとバイオリンづくりに励んでいたフランクの元に、その評判を聞いて弟子達が各地から集まりはじめました。その中に、ロビンという若者がいました。彼はフランクのつくるバイオリンの音色にあこがれ、遠くボヘミアの地からフランクの技を学び取ろうとやってきたのでした。フランクは分け隔てなく、集まった弟子たちに自分の持っている技術を授けようとしていました。その中でロビンは、情熱も才能もきわだっていました。

十年の歳月が流れ、ロビンのバイオリンづくりは円熟してきました。弟子達にもなかなかラベルを貼ることを許さなかったフランクでしたが、ロビンはそれを認めました。ロビンのラベルが貼られた第一号のバイオリンは、フランクの音色に勝るとも劣らないすばらしい作品でした。作品は工房の中央に飾られました。ロビンはフランクに認められたことを誇りとし、ますますバイオリンづくりに熱が入っていくのでした。

そんなある日、ドイツの世界的に著名なバイオリニストがフランクのバイオリンの評判を聞き、工房を訪ねてきました。町はずれの工房に、有名なバイオリニストがやってくることはふつう考えられません。フランクも弟子たちも感激し、名誉に感じました。

次のコンサートはぜひフランクのバイオリンで演奏したい、とそのバイオリニストは言いました。フランクにとって、夢のような話です。演奏会が成功すればフランクの名はドイツ中、いや世界中に広まるかもしれません。そして、工房も活気づくことでしょう。またとないチャンスです。

ところが、フランクのラベルが貼られたバイオリンはとぶように売れてしまいストックは一つもありません。作りかけの物がいくつかあるだけです。演奏会の日程を考えると、十分な時間があるとはいえません。納得のいく音色が出るバイオリンを仕上げるのはむずかしいように感じたフランクは悩みました。

————— 何とかしたい・・・。

心の中でフランクはつぶやきました。同時に、いろいろな想像が頭の中を駆けめぐります。

著名なバイオリニストがフランクのバイオリンを演奏しています。そして自分のバイオリンが奏でる音色が喝采を浴びる光景。

フランクはバイオリニストに向かって言いました。

「分かりました。いま製作中のものがあります。この品をお約束の日までに仕上げましょう」

それからのフランクは、食事も取らずにバイオリンづくりに熱中しました。徹夜もつづく日々でした。弟子たちには、何かにとりつかれているようにみえました。

そして約束の日の夜明け前、バイオリンはでき上がりました。薄暗い工房でフランクはそのバイオリンを弾いてみました。

「・・・だめだ」

その音にフランクはため息を漏らしました。

「こんな音では、だめだ」

————— 最初から満足いくものができるわけがないのは、分かっていたではないか・・・

フランクは自分をしかりました。バイオリニストには正直に言って誤るしかない。

————— しかし演奏会は台無しになるし、こんなチャンスも二度とこないだろう・・・

夜が白々と明けてきました。フランクはひとり工房の中で呆然と座り込んでいました。

そのとき朝日が工房に差し込み、一台のバイオリンを照らし出しました。それはフランクがロビンにはじめてラベルを貼ることを許したバイオリンでした。

ぼんやりと眺めていたフランクの手が、ロビンのバイオリンに伸びていきます。一瞬手をとめたものの、気がつくとフランクはそのバイオリンを手にしていました。そしてロビンの名前のラベルをはがし自分のラベルに貼りかえてしまったのです。

その日の昼前にバイオリニストはやってきました。

「お約束の品です」とバイオリンを差し出すフランクの手は、少し震えていたようでした。

バイオリニストはバイオリンを受け取るやいなや弾き始めました。その見事な音色に、工房は一瞬時間が止まったかのようにでした。弟子たちは手を休め、その音に聞き入っています。その中で一人ロビンは、息が止まるような衝撃を受けていました。

「これはすごい。まさに逸品だ」バイオリニストはそう言い残すと、満足そうにバイオリンケースをかかえ、工房をあとにしました。

演奏会は大成功でした。終演後も、喝采がしばらく鳴りやむことはなかったということです。

フランクの元にはバイオリニストからの礼状と巨額の謝礼金が届きました。フランクのバイオリンは一躍有名になり、工房には各地からの注文が殺到しました。

しかし、フランクの心は重く、憂うつです。一方ロビンは黙々とバイオリンづくりに集中しています。

————— ロビンに打ち明けなければならない・・・

フランクはそう思いながらも、なかなか言葉がみつからず、毎日胸を痛め続けました。

活気に満ちた工房の中で、フランクはぼんやりとしていることが多くなりました。

ロビンは、心ここにあらずといったフランクを見ているのがつらくなりました。

————— 自分がいることでフランクを苦しめているのではないか・・・

ロビンはそう感じました。

彼は故郷のボヘミアへ戻り、自分の工房を開く決意をしました。

故郷に戻ったロビンは、何かが吹っ切れたようにバイオリンづくりに情熱を傾けました。くる日もくる日も自分の音を求めて、真摯にバイオリンづくりに励みました。そしてフランクと同じように、満足のいかない品には決して自分のラベルを貼ることはありませんでした。ロビンのバイオリンは、ボヘミアの地でたちまち有名になったのでした。

一方、ロビンのいなくなったフランクの工房には、生氣なくバイオリンをつくるフランクの姿がありました。そんなフランクの元を弟子たちは、一人去り二人去り、工房は徐々に活気を失っていきました。

ある日、フランクのもとに一通の手紙が届きました。風の便りでフランクの工房の様子を知ったボヘミアのロビンからのものでした。フランクは、少しためらったあと、おそろおそろ封を切りました。「・・・私はあなたのバイオリンの音色に憧れあなたの弟子になりました。あなたのもとでバイオリンづくりの修行ができたことは、生涯の宝です。今でも私はあなたの音を求めてバイオリンづくりに励んでいます。しかしまだまだあなたの音を超えるバイオリンをつくることはできません・・・」

手紙を読み終えたフランクは、便せんを手にしたまましばらくうつむいていました。涙が床に落ちました。フランクはロビンに便りをしたためるため、筆をとりました。